

放送教育だより

全通研 放送教育研究委員会 平成 28 年 1 月 31 日発行

◆地区通研より

○東北・北海道地区

期日：平成 27 年 11 月 5 日(木)・6 日(金) 会場：ホテルメトロポリタン秋田（秋田県秋田市）

発表者：秋田県立秋田明德館高等学校 教諭 阿部 正洋

テーマ：本校における放送教育・視聴覚教育の取り組み～NHK 高校講座の利用推進を中心に～

東北・北海道地区各校から提出された協議事項等についての研究協議が行われた後、研究発表が行われました。

研究内容は、放送教育・視聴覚教育の観点から秋田明德館高校における課題を明らかにし、その課題解決のための方策を研究実践したものでした。具体的には「放送視聴環境の改善」と「NHK 高校講座の利用推進」の 2 点の発表がされました。

「放送視聴環境の改善」では、現行の高校講座以外に一般の NHK 番組等を特別放送視聴として設定したり、視聴回数に適正化を図ったりすることでセーフティネットとしての役割を強めることができたということと、視聴票に罫線を入れる改訂を行ったことで、まとまりの良い視聴票の提出につながったということです。

「NHK 高校講座の利用推進」では、NHK 高校講座のモニタリングを教員が行い、それを基に「おすすめの放送」を推薦し生徒に紹介するという取り組みや、NHK 高校講座の魅力や放送視聴について広報する「放送教育通信」の発行、クラス対抗モニタリング大会の実施が報告されました。

多くの教員や生徒を巻き込む仕掛けがとてもユニークで、これからの研究の幅を広げる可能性を持った実践だという印象を受けました。

(文責：放送教育研究委員 岩瀬 博文)



○関東地区

期日：平成27年9月11日(金)

会場：ベルクラシック甲府

発表者 ①新潟県立新潟翠江高等学校

教諭：沢崎 陽一

②神奈川県立横浜修悠館高等学校

教諭：岩瀬 博文

安田 陽一

テーマ

①放送視聴教育の「よこ」と「たて」の連携に向けた取り組み

～教科と中高の連携による教育効果の向上を目指して～

新潟翠江高校では、「生徒用MYPAGE」を開設し、各生徒がログインすることで、スクーリング出席情報、レポート提出状況と評価など多くの情報を得ることができる。さらに高校講座の利用促進のためにインターネットによる番組配信を積極的に活用する手段として、NHK高校講座へのリンクを貼ることで高校講座を視聴しやすい環境をつくっている。MYPAGEは約70%の生徒が利用している。今回の研究では、「よこの連携」として、発表者の取り組みを他の教科・先生方へと広げていくための実践報告が行われた。また、「たての連携」として、学習に困難を持つ生徒の多くが中学校の学習内容が不十分であることを考慮し、中学校訪問や学校説明会の機会を利用して高校講座「ベーシック」の視聴を勧めていく試みが発表された。本研究は現在進行形で継続しており、今後さらに内容を深めていく予定である。

②本校の現状と課題

～放送視聴機会の拡大に向けて～

修悠館高校では、不登校や発達障害等の困難を抱える生徒がかなり存在することから、「平日登校講座」・「IT講座」・「日曜講座」・「修悠館スタンプ」・「レポート完成講座」等、現在でも様々な形の学習支援を行っている。このような取り組みに加えて、高校講座視聴の機会を拡大するために「いつでも」「どこでも」に「スクーリングの時間でも」「学校でも」を含めて考え、スクーリングでの視聴を進めてみようと考えた。そのためにはまずハード面の充実が必要であり、各教室にプロジェクタとスクリーンを設置した。また、利用方法についてのマニュアルを作って研修を行うことにより教員側の利用ハードルをかなり下げることができ、活用が増加した。教員へのアンケートでも、「これからぜひ利用したい」と考える先生が増加している。生徒アンケートの結果から見てもまず、見せる・体験をさせることから始めるのは大きな効果があったようだ。

2校の発表で印象に残ったのは、高校講座をはじめとする映像教材の活用が今後増加していくことは明らかで、そのためには、「ソフト面」と「ハード面」の両方を充実させていくことが必要不可欠であるということである。

講評及び講演

早稲田大学人間科学学術院

向後 千春教授

通信制の今後の方向性として、eラーニングがTV等のリアルタイム放送に取って代わっていくことは間違いなく、高等学校においても、対面授業がeラーニング（映像教材を含む）よりも重視されている現状を変えていく必要が出てくるだろう。そのためには、インターネット等をはじめとするテクノロジーを具体的にどう活用していくかが課題となる。そこで、一つの学習形態として「スクーリングも取り入れたオンライン授業」の実践が報告された。早稲田大学で実施した「JMOCコース」での反転授業がそれである。大学ではすでに多くの科目でインターネットを活用したオンライン授業が行われているが、JMOCの大きな違いは、学習のまとめ（ゴール）としてスクーリングを実施したことである。オンライン授業を継続して学習した学生のみが参加できることになるが、登録希望者数が1日で300名を超すという大変な人気であった。さらにすでに同じ内容を自分で学習した人たちが集まるスクーリングは、大きな盛り上がりを見せた。「オンライン授業+スクーリング」のセットは、これからの新しい学習形態として注目される。数年後の高等学校学習指導要領の改定では、これまでのチョーク&トークの一方通行の学習形態から、生徒がアクティブに学習できる学び方が重視されていくようである。通信制の生徒達を育てていく上で、先生の講演は示唆に富むとともに、我々現場の教員にとっては大きな課題が提示されたのだと感じた。

(文責：放送教育研究委員 金塚省吾)

○近畿地区

期日 平成27年9月25日(金) 会場 姫路市立総合教育センター
発表者：京都府立西舞鶴高等学校 教諭：竹田 友子
テーマ：「西舞鶴高校における放送・視聴覚教育の取り組みについて」

研究協議会は、京都府立西舞鶴高等学校の放送教育への取り組みと放送教育を推進する上での各学校が抱える悩み、NHK高校講座を利用する生徒を増やすための方策などが話し合われ、活発な意見交換が行われました。

「視聴覚教材を利用した面接指導の効果」については、受講者アンケートの分析によると、生徒自身が自宅で放送番組を見るきっかけ作りとなること、映像を交えて大切なことを再度“言葉でまとめる”のが効果的であること、などが挙げられました。

「家庭学習に放送番組等を取り入れること」についての教員アンケートでは、自学自習を助ける有力な存在ではあるが、レポートと放送内容とのリンクについては、教科によっては慎重な意見が多く見られるとの報告がありました。

「生徒にNHK高校講座を利用させるための工夫について」では、総合学習や入学オリエンテーションを利用して高校講座の紹介DVDを見せて利用方法を紹介する、新入生へのパンフレット配布をしている等の実践が報告されました。

「放送視聴による減免制度について」では、減免申請の手順や利用者数について近畿地区通研加盟校アンケートの結果から、各校の放送視聴減免制度の比較が行われました。『放送視聴によって面接指導を減免するのは、通信教育が完成に近づくこと』と考えていいのではないかとこの意見も紹介されました。

(文責：放送教育研究委員 吉田 健)

○中国地区

期日：平成27年10月13日(火)・14日(水) 会場：岡山国際交流センター

<協議内容>以下の項目について、各校から報告があり協議を行った。

- ①ICT(タブレット端末など)、様々なメディア教材を活用した取組について。
- ②入学時に放送視聴の説明をどの程度行っているか。また、放送視聴による面接時間数免除の条件と、免除を行っている生徒の割合について。
- ③放送教育を、レポートやスクーリングにおいてどのように活用しているか。
- ④レポート作成及び面接指導における著作権上の留意点について。

①ICT(タブレット端末など)を利用した取り組みは、検討中が1校あったのみで、ほとんどの学校でまだ実施されていなかった。PCとプロジェクターを用いて、生徒へ視覚的に学習内容を捉えることができるような工夫や、HPを活用しての生徒への学習支援を行っている学校が多数あった。

②実施していない。取り組んでいない学校もあるが、NHKから送られてくるパンフレットを配布して、全体場で案内。学習のしおりや手引きで紹介。入学後のオリエンテーションで説明しているといった学校があった。免除の条件も学校に様々であった。実施している学校については、6/10までが多い印象を受けた。

③利用していない学校が多かった。利用している学校では、スクーリングの中で視聴覚教育的に、NHK高校講座の番組の一部を見せる取り組みをしていた。

④教科書会社の許可を得たもので問題を作成したり、資料を提示する際は出典を明記したりするなど、法令の範囲内で許容される内容を扱っていた。著作権フリー以外のものは使用しない。教諭、管理職で点検を行っている学校もあった。

<所感>限られた時間ではあったが、参加した学校の放送教育にかかわる情報交換と意見交換が活発になされた。HPを活用した学習支援の紹介もあり、eラーニングを見据えた放送教育の新たな指導方法を模索する議論もあった。有意義な研究協議会となった。

(文責：放送教育研究委員 渡部 儀隆)



○四国地区

期日：平成 27 年 7 月 9 日（木）・10（金） 会場：あわぎんホール（徳島市）

発表者：徳島県立徳島中央高等学校 教諭 外山 千佳、齋藤 治

テーマ：「本校における放送利用の推進とデジタルコンテンツを活用した学習支援について」

第 1 日目の全体会でNHK 番組紹介、研究発表（2 本）、研究協議、情報交換、指導助言の内容で行われた。一つ目の発表は、各科目のレポート課題の中に、NHK 高校講座の内容を取り入れた問題を設定し、各回レポートにアンケートを添付し、視聴の実態、意識を把握したものであった。アンケート結果から、潜在的な視聴可能者が非常に多くいることが明らかになった。ある科目では、回数を追う毎に視聴率が高まってきていた。また、教員からは「放送は、内容的にも優れており、且つ非常に面白く作られているので生徒に勧めたい」「理解を深めるための視聴という観点から勧めても良い」という意見があった。

高校講座を視聴して学習を進める、深めるというスタイルが、現在の、教科書・学習書を使用しての学習というスタイルと同等に浸透し定着すれば、通信制の基本である「自学自習」の大きな支えになると共に、卒業後の「生涯学習」にもつながると考え継続して取り組みたいとの報告であった。

二つ目の発表は、数学科において、レポートにつまずく生徒に対する支援の 1 つの方法として、デジタルコンテンツを作成し、将来的には、インターネット配信により、いつでもどこでもレポート課題に取り組める環境を整えようとする取組であった。また、生徒の学習活動と理解度を高める扶助として、面接指導にデジタルコンテンツを活用した。その結果、平成 25 年度の数学 I の単位修得率と比較すると、わずかではあるが修得率が上昇した。数学 A や数学 II と比較するとまだまだ低い現状であるが、今後も生徒の実態に沿った指導を継続し、他教科でもデジタルコンテンツ教材を用いた学習支援等、新たな取り組みを実践していくことで、基礎学力の定着や主体的に学習に取り組む態度を養うことにつなげていきたいとの報告であった。

研究協議及び情報交換では、NHK 高校講座の各校の利用状況、デジタル機器やタブレット端末の導入状況等について、活発な協議がなされた。最後にNHK、徳島県及び愛媛県教育委員会より指導助言をいただき閉会した。

○九州地区

日 時：平成 27 年 11 月 19 日（木）・20 日（金） 会 場：ホテルパレスイン鹿児島

発表者：熊本県立湧心館高等学校 講師：松崎 裕子

テーマ：ICT を活用した放送教育の推進を目指して

<発表内容>

放送教育の活用とともに ICT の活用推進も目指し、校内環境の整備に向けた LAN 系統調査や生徒のインターネット利用実態調査、NHK 高校講座活用状況調査などに基づいた考察や今後の課題についてまとめた。

- ・スクーリングでNHK 高校講座を活用するには設備面の環境整備が不可欠であり、全日課程との調整を含めて、機器の整備が課題となっている。
- ・高校講座に関する生徒アンケートでは、目的を「自学自習」や「視聴報告のため」とする回答が多く、中には継続視聴している例も見られた。携帯電話を保有する生徒は 94% であり、家庭でのインターネット使用環境も整っている。一方で、未視聴生徒は約 7 割に上っているため、今後はスクーリングにおける活用を含めた働きかけを推進することで、生徒に NHK 高校講座の活用を促すことができるのではないかと。

<『分科会照会事項回答』について>

九通研大会では、各校からの質問に対する事前回答を、分科会ごとにまとめた冊子の配布が行われている。会場で共有できる時間には限りがある中、加盟校全体での情報交換・共有を行う上で非常に素晴らしい取り組みであると感じた。

<九通研の団結力及び夜の研究協議会>

九通研夜の研究協議会においては、各校の挨拶に加えて持参した地元酒の紹介が行われることが恒例となっている。鹿児島を代表するプレミアム焼酎をはじめこだわりの品が揃えられ、壇上で繰り上げられる個性豊かな掛け合いを通し、会場の一体感が高まっていく。九通研加盟校の団結力の源を垣間見たように思う。



（文責：放送教育研究委員 山口 瞳）